

生活支援部会(22年度第4回)会議録

開催日時：平成22年7月16日(金) 13:30～16:00

場所：一宮市社会福祉協議会 尾西支部会議室

<本日の会議の内容>

1. 本会の報告
2. バスツアーについて
3. 今後の部会の進め方についての交流

1. 22年度第1回本会の報告…事務局さんより報告

- (1) 会長、副会長の選出…会長、副会長 選出
- (2) 個別支援会議の報告、分析
 - ・発達障がい、児童の問題が多くあがった 新たな部会の設置の必要性(本会承認)
- (3) 運営会議、生活支援部会の報告
 - ・バスツアーの推進について…承認
- (4) 相談支援連絡会の設置…承認
 - ・指定事業所、委託事業所、療育サポート、就労生活支援センターの参加で月1回開催、相談支援の質の向上、情報交流、地域課題の把握の場になっている。
- (5) 昨年の提言書の結果報告について
 - ・相談支援センターの設置…5ヶ所の設置 22年度4ヶ所にとどまる。
(23年度6ヶ所の予算要求は継続する。)
 - ・日中一時支援事業の要件緩和、単価の見直し 加算等の単価見直しと、事業所の指定要件の緩和を実施。
 - ・移動入浴サービスの回数の見直し…4回 9回へ増…実際の利用実績は増えたかの検証必要。
(事務局で確認)
- (6) 障害福祉計画の進捗状況について
 - ・訪問系サービスの伸び…前年度比20%増 利用者負担軽減の影響
介護保険事業所の受け入れ増等が考えられる
 - ・ケアホームのニーズの大きさに比べ、目標達成度が低い
- (7) その他
 - ・情報公開について
まず第1回本会からの議事録を市のホームページにて公開予定
発言者氏名の公開はせず、発言要旨、資料は公開
 - ・部会の議事録等の公開については今後検討
(他の市町村でも公開しているところはあまり多くないようである)
 - ・バスツアーに協議会会長が出席予定

2. バスツアーについて

(1) 広報原稿の確認(別紙・・・広報原稿案、事務局より実際の広報依頼原案)

- ・原案の見学場所の記述 「障害者福祉施設 4 箇所を予定」の前に「市内」の記述を追加。

(2) チラシについて

- ・「主催 一宮市自立支援協議会」の文字サイズを大きくする。
- ・一宮市内で元気に活動中の「団体」 「福祉事業所」に修正。
- ・集合場所: 「一宮市尾西庁舎駐車場」 「一宮市尾西庁舎北側」に修正。
- ・定員「20 名程度」 「25 名」に修正。
- ・「当選者は発送をもって代えさせていただきます。」 「当選された方には後日連絡させていただきます。」に修正。
- ・申込書にあすかのメールアドレスを記載する。
- ・申込書に返信先のFAX番号を記載する欄を追加する。

当選者には、FAXにて結果を返送、FAXがない方はメールか電話にて返事をする。

< 配布スケジュールについて >

- ・7/28(金)運営会議承認 配布
- ・チラシの印刷(事務局)500部(庁舎各100部、支所・出張所各10~20部)、色紙(パープル)
- ・各福祉事業所から配布する分は、各事業所で印刷を依頼

(3) 広報、宣伝について

- ・市のホームページ(自立支援協議会のページ)から申し込み用紙をダウンロードできるようにする。(事務局)
- ・広報9月号・・・8/25頃から各戸配布開始
- ・学校関係への案内の依頼

同朋大、淑徳大

江南短大、岐阜聖徳大

修文大

チラシデータを各委員、事務局に送信

3. 今後の部会の進め方について(意見交流)

- ・ケアホーム・グループホームの不足、地域移行の問題、退院促進についての課題解決にむけて部会での議論、取り組みが必要であるとの提案があり。
- ・それをふまえ各委員の問題認識、部会での取り組み等から感じていることについての交流へ
- ・ヘルパー連絡会の設置 ヘルパーの質の向上、他のヘルパー事業所、相談支援センターとの連携の必要性
精神障がいの方への対応、障がい特性・疾病の理解
- ・民間の福祉事業への参入について もっと情報提供できるしくみ、企業との連携を模索できないか
ケアホーム事業等への参入、本町商店街等での事業、街の活性化、新規のNPOの立ち上げなど
- ・日中一時支援についてニーズの大きさに対して事業所の体制が厳しい
(事業所数、受け入れ体制、単価の問題含む)
- ・精神障がいの方のサービス受け入れ先が限られている。(日中活動先、ヘルパー、暮らしの場ともに)
近隣住民との関係構築、啓発活動の難しさがある。

- ・日常生活自立支援事業の利用今年度3ヶ月ですでに10件(昨年度1年で24件)
金銭管理の必要な方が増えている。身元保証の問題、亡くなった後のお金の処理の問題
- ・後見人の問題・・・あいち後見サポートセンターの取り組み
市民後見サポーター(行政書士会の参加)の活動
- ・こどもから大人へ、大人から高齢へ 人生を見通した支援、切れ目のない支援ができる仕組みを考える
必要性
- ・精神障がい、発達障がい・・・子どもの時の環境整備と支援の重要性
長期的にみれば、その方の生きづらさを最小限にとどめる方策になるのではないか
- ・住む場所の問題、ショートステイも不足している。ホームレスの相談・・・。
働く場、仕事が少ない、就労に結びつくための人の支援の不足
- ・医療と福祉の連携の必要性
- ・暮らしの場・・・親の思い「親亡き後の問題」切実である。
しかし選択ができない「数」「質」ともに足りない。
受け皿(最後の砦)として入所施設の役割が必要である。
入所施設の課題もある(区分によって入所できない、入所施設の定員もいっぱい)
- ・ケアホーム連絡会の立ち上げ 各事業所の運営のノウハウを共有できる場所として
(アパート型ホームの立ち上げ、株式会社などの参入も可)
世話人の交流、質の向上の場として
- ・市の土地や物件の情報提供ができないか? ホームとして使える物件や土地の情報がほしい。
- ・1人暮らし、地域での生活を支える時に、夜間、24時間対応できるサービス仕組みがほしい。
現状、法人や事業所の心意気に頼るしかない。市の事業にすれば莫大な費用がかかる?
何かいい方法はないか?
- ・自立支援法の改正法案、障害者差別禁止法案の行方も鍵を握っている
(改正案の主な内容)
ケアホームの家賃補助(無年金の方は特に関係してくる)
放課後型児童デイの充実
相談支援事業の強化
成年後見利用支援事業の市町村事業化 など

<意見交流での大まかなまとめとして>

- ・各事業所、法人、団体のノウハウを共有できる場がほしい
- ・多くの事業所が集まる機会をつくり、質の向上に向けた研修の場や情報交流の場をつくりたい。
ノウハウの共有によって新規事業促進や運営の参考にできる
結果、地域の課題解決、発展につながる
そのための、ヘルパー事業所連絡会、ケアホーム連絡会等の立ち上げ、相談支援事業所の連携強化

次回部会で継続して議論を深めていく

4. 次回部会の日程

- ・22年8月11日(水)13:30～
- ・場所:未定(後日連絡)

その他お知らせ

7 / 3 1 (土) チャイブ夏祭り 17時～21時

8 / 1 0 (火) 榎の木作業所 盆踊り 18時～21時

生活支援部会(22年度第5回)会議録

開催日時：平成22年8月11日(水) 13:30～16:30

場所：一宮市尾西庁舎 第3会議室

<本日の会議の内容>

4. バスツアーについて

5. 今後の部会の進め方についての交流

1. バスツアーについて

<進行状況の確認>

・参加者に当日配布する資料 封筒に入れて当日朝配布する(案)

封筒・・・事務局準備

封筒に参加者の名前を記入又は貼付すると参加の確認もできる、封筒入れの準備必要か

・当日参加者に配布する事業所の紹介用チラシ

各事業所で作成し(A4の1/2のサイズ) 8/30までに相談支援センターあすかにメールでデータを送信する

<事務局より>

・チラシ印刷済み(500部) 本庁100、各庁舎50、各出張所20・・・計400

(完成チラシ別紙) 残りの100を福祉課、各事業所に配布(足りない分は各事業所で印刷・配布)

・一宮市広報の刷り上り案の確認(別紙)

・ホームページアップについて(担当部署に依頼済み)・・・チラシと申込用紙PDFで8/25頃までに

福祉課自立支援協議会のページにアップ予定

<その他>

・今後の見学ツアーについて

他の事業所から「ツアー見学の事業所にいれてほしい」の問い合わせがあった場合について

その都度部会で検討していく(見学ツアーの開催主旨、目的を理解していただき、部会でまず見学視察をする)

2. 今後の部会の進め方(前回からの続き)

<先回の交流をふまえて意見交流>

・退院促進事業に関して(県事業)・・・長期入院(1年以上の入院) 地域へを推進 22、23年度の時限付の事業
(事業の内容)

事業の宣伝・普及

圏域の協力病院に地域移行推進員を配置(移行にむけたケアマネジメントの役割)

病院長から移行可能な患者さんを推薦 面接 体験利用など支援体制の構築 地域へ

(課題)

・住まいの確保

・サポーター、ネットワークの構築 自立支援協議会としての関わり方があるか

・病院から地域へ、入所から地域へについて

(病院、入所の利用者だけをみるのではなく)地域の利用者を支える一環として体制づくりを行っていくことが必要ではないか。

・精神障がいの方を地域(在宅やケアホーム等)で支える場合

医療機関(主治医、看護師、病院)との連携が欠かせないが、ケアホームで一番関わりが薄いのが医療。訪問看護の利用や医療機関との関係をつないでくれる役割が必要。

重心の方(医療的ケアが必要な方含む)をホームで支える場合も同様ではないか。

精神障がいの方に対応しているヘルパーの立場でも医療との関わり必要性を感じている。

ケアホームでの訪問看護・・・精神科訪問看護は対象、精神科以外は対象とも対象外ともはっきりした決まりがない。

グレー的?になっているが、全国的には利用例は多数ある。

一宮市ではまだ利用例はない?ようである。

・福祉と医療の連携薄い、病院の方向性、考え方も大切

・人格障害の方について

自傷行為への対応・・・その段階になったら入院が必要

(入院・治療して)治るかと言われれば治すことは難しい。人格障害にもいろいろなタイプ、型がある。

いかに他者と折り合いをつけて(迷惑をかけずに)生活できるか。

・地域で暮らすために必要サービス

必要な10のうち、9割サービスが整えば地域で暮らせる(1割は本人の力)

サービスが整えられるのか、サービスが9割整わないのに地域で暮らせるか?

・暮らしの場(ケアホーム、グループホーム等)については福祉計画、ニーズに全然追いついていない

解決方法として、例えば長野県の西駒郷の入所施設解体の成功例は、トップダウン方式で莫大なお金をつぎ込んで、短期間で実施したが、一宮市でそのような予算をつけて実施する方法はできない。

・協議会、部会としてまず何から始めるか?・・・予算をかけずに、お金をかけないでできること

あるものを有効に使う

ネットワークをつくる、連携する

研修等で人材育成をする

情報、ノウハウを共有する

まずはじめにヘルパー連絡会を立ち上げたい (先回の会議ではケアホーム連絡会についても話題にあがった)

立ち上げ方をどうするか?どれくらいの事業所が集まってくれるか?

・まず立ち上げの目的をはっきりさせ呼びかけてみる

・呼びかける事業所の範囲

・立ち上げにあたり、アンケートを実施してみる

・研修等を企画し呼びかける・・・など最初の立ち上げの方法に関して検討が必要か?

介護保険のヘルパー事業所連絡会とのかかわり方

ゆくゆくは介護保険の連絡会と連携し、障害福祉分野へ参入拡大を図りたい、合同で研修等を行ないたい。

3. 次回部会の日程

・22年9月10日(金)13:30~

・場所:未定(後日連絡)

生活支援部会(22年度第6回)会議録

開催日時:平成22年9月10日(金) 13:30~16:20

場所:一宮市役所 5階 第二会議室

<本日の会議の内容>

1. バスツアーについて
2. 居宅介護事業所ネットワーク(連絡会)について

1. バスツアーについて

<進行状況の確認>

・参加希望者...17人(9月10日現在)

一宮市内の方以外に幸田町、江南市、岐阜市、岩倉市、オーストラリアの方がいる。

女性が16名 男性が1名

5日[※]の朝、参加者に配布する封筒には、上記パンフレットと、自立支援協議会のチラシを入れる(事務局が用意)2

・参加者に当日配布する資料は各施設で用意(各自で都度封筒に入れていく)。

<事務局より>

・尾西庁舎の管理課から、

「当日尾西庁舎の駐車場の使用をできるだけしないで、公共交通機関を利用してもらうように参加者に呼び掛けてほしい」

「次回からは尾西庁舎の駐車場を集合場所としないでほしい」との話があった。

・今回の参加者には公共交通機関の利用を呼び掛け、次回からは別の集合場所を検討する。

<その他>

・参加希望者の集まり具合によっては(25名以上)、車を出す可能性あり。

2. 居宅介護事業所ネットワーク(連絡会)の立ち上げについて

・既存の介護保険の連絡会の次回会議に、部会長が出席し、立ち上げの趣旨を説明する。また、連絡会として、障害福祉分野の研修会を4回シリーズくらいで開催を考えているので参加を促す。

・連絡会を立ち上げるにあたって、生活支援部会に委員を増員する。

・上記研修会内容(案)としては...

精神障がい分野 発達障がい分野 身体障がい分野

知的障がい分野

3. その他

・新たな部会の設置「発達支援部会」について...9月末頃出席者の名簿が決まる見込み

10月中旬第1回目部会予定

・市福祉課主催 講演会 今年度は「発達障害」をテーマに

・行事に自立支援協議会のブースを出す・・・協議会のチラシを置くブースを各福祉会に依頼をする。
(必要があれば依頼書を作成する)

10/30(土) かしの木まつり、きそがわ福祉会バザー 11/28(日) コスモスまつり

・今後自立支援協議会のチラシを新しいバージョンにしていく。

4. 次回日程

10月13日(水)13:30～ 場所未定

生活支援部会（22年度第7回）会議録

開催日時：平成22年10月13日（水）13：30～15：40

場所：一宮市役所尾西庁舎3階 第3会議室

<本日の会議の内容>

1. 福祉バスツアーの反省について
2. 自立支援協議会のPRについて

1. 福祉バスツアーの反省について

- ・参加者21名、スタッフ6名、自立支援協議会会長、福祉課職員の総勢29名。
事前に4名のキャンセルがあったが、キャンセル待ちの補充はせず。
今回の参加人数でギリギリの印象。今後の開催は定員25名が好ましい。
- ・アンケートの結果は、半数以上が参加してよかったとの回答。
- ・全体的に参加者からは好印象であった。演出（スタッフ側が仕事に就いた動機など）もよかった。
- ・視察先を見学した印象で体験希望につながっていくのであれば、在宅のヘルパー体験希望につながらない懸念も・・・
今回、アンケートで体験希望された方には事業所から直接連絡を取り合ってもらおうが、見学先以外の体験につながりにくいいため、今後のやり方は要検討。
- ・会長からは、どんどん開催した方がよいとの反応。
- ・福祉バスツアーは人材確保が主目的だが、付帯効果として各事業所の周知につながるのはいいこと。
報告書については、福祉課ホームページへの掲載や窓口パンフレットスタンドに設置可。
- ・見学先の公平性が気になる点で、実際少し声もあがっている。次回から、見学先以外の情報も配布資料として参加者に提供できるとよい。（サービス事業所一覧の配布や体験の可否一覧の作成など）
取り組み始めとして、部会委員の関係先施設で実施しており、部会での配慮は現状では精一杯と思われる。
今後の公平性の問題については、事業所連絡会ができてからの課題ではないか。
- ・駐車場の問題は、引続きの課題として残っている。

次回の福祉バスツアーは、「かすみ草」「あすか」「MOVE」見学で、来年5月頃開催予定

2. 自立支援協議会のPRについて

- ・様々な催し会場で、自立支援協議会のブースを確保してもらえらるが、配布するものや掲示するものがない現状がある。
11月28日（日）開催のコスモス祭りでのブース設置に向けて検討する。
- ・自立支援協議会の周知などを想定し、事務局でパソコン2台とホームページ作成ソフトを予算計上しており、今年度中に購入予定。活用方法については今後の検討課題。
- ・自立支援協議会に予算をつけていく働きかけを今後していく必要があるのではないか。

3. その他

- ・協議会主催の山田優氏による講演会
平成23年2月11日（祝・金）午後～ 尾西庁舎6階
- ・10月20日（水）開催の介護事業者連絡会訪問部会に出席予定。

4 . 次回日程

11月10日(水) 13:30 ~ 場所未定

生活支援部会(22年度第8回)会議録

開催日時：平成22年11月10日(水) 13:30～16:00

場所：一宮市尾西庁舎西館 第2会議室

<主な議題>

6. 居宅介護事業所連絡会について
7. 自立支援協議会の普及・広報活動について

はじめに

新委員よりあいさつ

1. 居宅介護事業所連絡会について

介護保険連絡会の報告

- ・居宅介護事業所連絡会についてのチラシ配布と連絡会立ち上げについての説明を行った

連絡会についての意見交流

- ・他の事業所との連携がなかなかとりにくい現状がある、連絡会が横のつながり、ネットワークづくりのきっかけになれば。
- ・サービスの内容や個別のケースについてどう対応するべきか等情報交換の場になれば。
- ・事業所の力量によって同じサービスでもサービス提供の質に差がでる。
(そのことによって、ヘルパーが本人の自立を妨げている場合もある、利用者に不利益になる場合もある。)
- ・個別の利用者の情報交換(ケース検討)等は個人情報の点から注意が必要。
- ・同じ利用者に複数の事業所が関わる場合に、支援方法の統一等の目的で行うケース検討は個別支援会議を活用するほうが良い。(本人や家族の同意が必要)
- ・相談支援員を中心に本人家族の同意があり、事業所間の個別支援会議等を行う場合は、事後報告でも良い。
- ・サービス内容の詳細についての市の対応は、統一した対応は難しい、個別のケースで様々な勘案事項をふまえて対応することになる。
- ・児童デイ事業所を会場にして児童デイ連絡会を実施したが、参加者が少なかった。
(力量のある事業所にとっては魅力がないからなのか？勉強しようという意識がないのか？連絡会の必要性を感じないからか？多忙？)
- ・事業所として連絡会に送り出せる体制、余裕があるか、トップの考え方も影響する。
- ・介護保険の事業所がどうしたら障害分野に参入してもらえるのか？
- ・障害分野に参入しなくても経営は成り立っている、介護保険と障害分野(障害者自立支援法)では制度システム自体が大きく違う。
- ・介護保険の事業所で障害分野のサービス提供もしている事業所の場合、1人のヘルパーが介護保険も障害分野のヘルパーも担当する。(障害分野担当のヘルパーを確保するわけではない)
- ・居宅介護事業所にとって相談支援センターとの連携は重要であり、介護保険の事業所が障害分野に参入する場合は特に相談支援センターの力が必要であると思う。
- ・現状の相談支援体制では、全ての利用者のサービスの組み立てやサービス量、サービス内容のチェック等を行うことは不可能であり、各事業所の力量、特に個別支援計画の作成が重要である。(個別支援計画の様式の統一や研修等も必要である)
- ・連絡会立ち上げのそもそものきっかけ・・・ヘルパーの人材不足・サービスの質の向上
人材がある介護保険の事業所に参入、受け入れ拡大を図ってもらいたい

1つの事業所だけでカバーできないところは複数の事業所でカバーできないか
ネットワークをつくり市内の事業所全体のサービスの質の向上を図りたい

検討課題

- ・たくさんの事業所に集まってもらうにはどうしたらよいか？
- ・障害分野に未参入の事業所や、連絡会の参加に意欲的ではない・積極的ではない事業所にいかに集まっていたか？

立ち上げの趣旨・活動の目的を大切にすること

連絡会の目的(別紙「居宅介護事業所連絡会の発足について」参照)

- ・障害のある方が安心して生活できるように、事業所同士が知恵を出し合い、連携しながら地域生活支援のための活動を行う。
- ・必要なときに必要なだけ質の良い支援を届けたい。居宅介護事業所のネットワークをつくりサービスの質の向上とサービスの量を確保できるようにしたい。

活動内容を魅力的なもの、参加するメリットがある内容にする

- ・名簿の作成
- ・利用状況の空き状況
- ・事例検討
- ・研修会
- ・障害者施策の情報提供

連絡会に参加しやすい工夫

管理者や責任者・・・日中の時間帯が良い。月末・月初めは忙しい。

研修等(ヘルパーさん)・・・どの時間帯が良いか？夕方～夜間がよい？(16～18時は比較的忙しい時間帯)

連絡会の立ち上げ・当面の進め方

- ・第1回目の連絡会を23年1月中に開催したい。
- ・第1回目の連絡会の企画準備にむけた担当者打ち合わせ・・・12月6日(月)13:00～
- ・12月の次回生活支援部会に企画提案 運営会 1月実施

2. 自立支援協議会の普及・広報活動について

- ・ホームページ作成・・・部会長中心に進める(すぐにはむずかしい)
- ・自立支援協議会の広報・普及用のリーフレット

3. その他

一宮商工会議所、ビジネス支援センターについて

- ・障害者雇用の手助けをお願いできないか
- ・障害者事業所にビジネスのノウハウの提供をお願いする
- ・ビジネス支援センターの事業の中に障害者雇用の事業を設けて欲しい
- ・事業所の質の向上のための研修をお願いしてみる(接客・接遇・マナー研修・・・管理者、責任者、スタッフ向け)

市内の団体、法人に呼びかけて共同でできないか？

社協の広報にバスツアーの報告書を掲載できないか

一宮市障害者自立支援協議会本会・・・12月13日

来年度の予算について

- ・生活支援部会の予算はなし
- ・発達支援部会については、サポートブック作成の予算として約50万円あり
- ・協議会用のパソコン2台分の予算はあり
- ・相談支援体制の充実にむけて予算協議をしている
 - いずみ学園(障害児通園施設)と児童デイの同一日の利用はできない(日中一時支援の同一日利用は可)
 - 杏嶺会の公開講座「”神の手“脳外科医・福島先生」詳しくは杏嶺会のホームページで

4. 次回部会の日程

- ・22年12月8日(水)13:30~
- ・場所:未定(後日連絡)